

「SUMMER CAMP」～Hakui City Cycling～

1 趣旨

本事業は、参加する子ども達に身に付けさせたい力として、「能登の里海里山で自然環境および歴史・文化資源を活用した宿泊体験活動を通して、初めて出会う仲間と共に自然に親しみ互いに協力し合うことで、よりよい人間関係をつくる力を育む。」こととする。

2 日程

- (1) 期 日 令和4年7月31日(日) 事前説明会 日帰り
 令和4年8月7日(日)～9日(火) 2泊3日
- (2) 参加者 小学校5・6年生 18名
 (5年生：男子5名、女子3名 6年生：男子8名、女子2名)
- (3) 研修内容

7月31日(日) 【日帰り】	8月7日(日) 【※館内泊】
9:30～受付 10:00～開講式 アイスブレイク 10:30～熱中症予防対策講義 講師：大塚製薬工場 11:30～昼食 13:00～サイクリング 16:00～振り返り 振り返り後解散	9:30～受付 10:00～アイスブレイク、チームフラッグ作り 11:30～昼食 12:30～サイクリング 13:00～SUP体験・砂像造り体験 17:00～入浴 17:30～生活指導、ベッドメイキング 18:30～夕食 19:30～星空観察会 21:30 就寝
8月8日(月) 【館内泊】	8月9日(火)
6:00 起床 7:20～朝食 8:30～サイクリング コスモアイル羽咋(コスモシアター鑑賞、館内見学) 羽咋市歴史民俗資料館(館内見学) 吉崎次場遺跡見学(昼食含む) 弥生人体験(火おこし体験、まが玉づくり) 17:00～入浴 18:00～夕食 19:00～サイクルフォトリゲイニング作戦タイム 21:30 就寝	6:00 起床 7:20～朝食 8:30～サイクルフォトリゲイニング 11:30～昼食チェックイン(コスモアイル羽咋) 14:00～自転車整備 15:00～表彰式・閉講式

※ 当初はテント泊を予定していたが、コロナ感染症対策のため館内泊に変更した。

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

①熱中症予防対策講義

夏の野外活動で心配が高まるのが熱中症等の対策です。講義では、経口補水液を製造している大塚製薬工場より二人の講師をお招きし、「熱中症は、ほとんど防ぐことができるにもかかわらず、死んでしまう場合がある」をキーワードに熱中症等の危険性と対策を教えていただいた。どのような飲み物をいつのタイミングで飲むと効果的なのか、食事の大切さなどを分かりやすく説明していただき、参加者も自分のこととして真剣に学ぶことができた。今回のプログラムで熱中症等になる参加者がいなかったのは、最初にこの講義を行ったおかげである。



【熱中症等対策講義】

② SUP体験・砂像造り体験

SUPとは「Stand Up Paddleboard（スタンドアップパドルボード）」の略称である。その名の通り、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく新感覚のアクティビティであり、施設から近い羽咋市柴垣海岸で楽しむことができる。

サイクリングで海岸まで移動し、SUP体験と砂像造りを交代で行った。SUP体験では市民活動団体「長手島」に指導していただいた。事業当日は、少し波もあり参加者にとって挑戦しがいのある活動状況であった。参加者は波を受け、何度も海に落ちながらも果敢に挑戦し続ける姿やタイミングよく波を捉え、波に乗る爽快感を味わう姿が見られた。始めはボードの上に座るのがやっとだった参加者も次第にボードに立つことができるようになり、やがて思い通りに進む姿も見ることができた。「長手島」の皆さんからは上達が早いと褒めていただいた。安全を確保しながら、自然に挑み、自然を楽しむことができたようであり、アンケートの結果でも満足できたことが分かった。砂像造りではチームフラッグに描いたキャラクターや交流の家のキャラクターを砂で立体的に表していた。



【SUP体験】



【柴垣海岸】



【砂像造り体験】

③ 星空観察会

星空観察会では、レンズ式とミラー式の2台の天体望遠鏡を使って交互にいろいろな星を観ることができた。始めに観た月は写真で見るとリアルにクレータやウサギの形が分かった。参加者からは夜にもかかわらず、「まぶしい」「長く見てられない」と衝撃を覚えたようだった。ベガ・アルタイル・デネブ（夏の大三角形）に続いて、はくちょう座のくちばしに当たるアルビレオは、目で見るとひとつの星なのに望遠鏡で観ると、はっきりと金色と青色の二つの星で成り立っていることに驚いた。また、土星のリングや北十字星等たくさんの星を講師の先生から教わり、観察することができた。



【ミラー式望遠鏡】



【レンズ式望遠鏡】



【夜なのにまぶしい月】

④ サイクリング・弥生人体験

能登の里海里山には、各所に自然、歴史・文化的資源が多数あり、教育的価値が高いものもある。サイクルフォトログイニングは、これらをチェックポイントとして設定し、サイクリングをしながら巡る活動プログラムである。市内に多数配置されたチェックポイントをどのように周るかをチームで話し合い、作戦を立て、協力して活動することから、仲間づくり・チームビルディングの要素も持ち合わせている。

今回の事業では、サイクルフォトロゲイニング作戦タイムをより充実したものにするために、前日に全体でのサイクリングの活動で、羽咋市内の自然、歴史・文化的資源等を周りながら施設見学や体験活動を行った。コスモアイル羽咋では、コスモシアター鑑賞や館内クイズラリーにより、宇宙や天体について学ぶことができた。羽咋市歴史民俗資料館、吉崎次場遺跡公園では、学芸員の解説を聞きながら、施設見学や遺跡見学を行い、羽咋市の歴史について学ぶことができた。また、弥生人の服装と言われる貫頭衣を身に着け弥生人になりきり、火おこし体験とまが玉づくりを行い、弥生人の生活や文化に触れることができた。



【コスモアイル羽咋】



【まが玉づくり】



【なりきり弥生人】



【火おこし体験①】



【サイクリング】



【火おこし体験②】



【歴史民俗資料館】

⑤サイクルフォトロゲイニング

サイクルフォトロゲイニングとは、移動手段として自転車を使用し、地図を見ながらコースに多数設置されたチェックポイントをできるだけ多く、制限時間内にまわり、得られた点数を競う野外スポーツである。

サイクルフォトロゲイニング作戦タイムでは、サイクリングで得た距離感や方向などの情報をもとにグループで活発な話し合いをすることができた。作戦について、互いに意見を出し合いながら最終的には意見を調整し合い、グループとしての作戦を立てることができた。

最終日は「熱中症0 交通事故0 高得点」を合言葉にチームはサイクルフォトロゲイニングに散らばった。参加者からは2泊3日の疲労が多少みられたが、チェックポイントやゴールした写真にはチーム全員が大きな達成感を感じているようだった。



【作戦タイム】



【ゴールした瞬間】



【金栄山妙成寺】



【千路駅前花公園】



【マリーナのUFO絵】

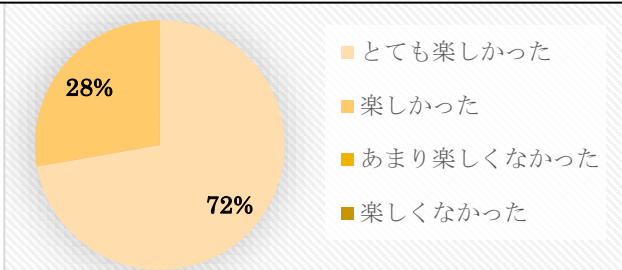


【擬音の石彫オブジェ】

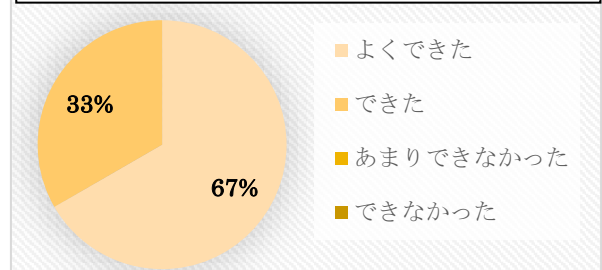
(2) アンケート結果について

事業評価を目的とし、参加者を対象にアンケートを実施した。

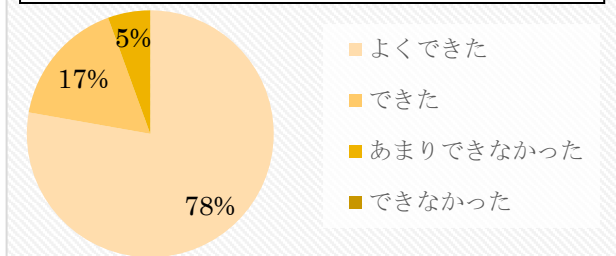
①「SUMMER CAMP」は楽しかったですか。
(事業の総合的な満足度)



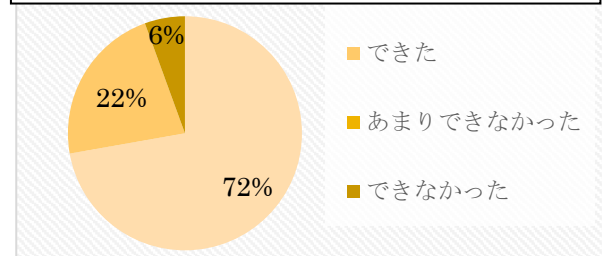
② 1日目のアイスブレイクやチームフラッグ作りを通して仲間づくりができましたか。



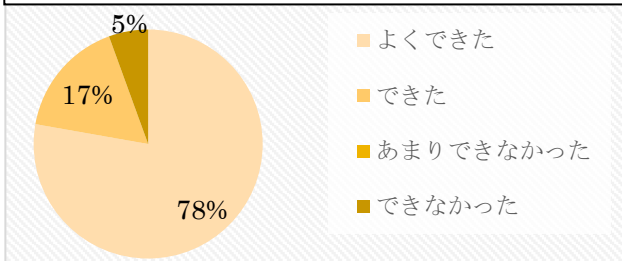
③ 1日目の SUP 体験を仲間と一緒に行うことができましたか。



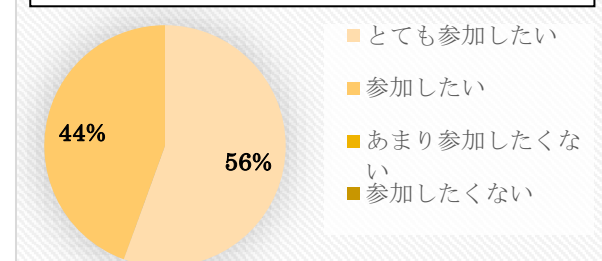
④ 2日目の、羽咋市内サイクリングを通してチームワークを高めることができましたか。



⑤ 3日目の、サイクルフォトリゲイニングを通してチームワークを高めることができましたか。



⑥ またこのようなキャンプに参加したいですか。



<参加者の自由記述より (一部抜粋)>

① SUP 体験について

- ・最初はうまくできなかったけど、やっていくうちに立てるようになったのが楽しかった。
- ・すぐにコツをつかめたので、とても楽しかった。

- ・立つのが難しかった。初めてだったけど家族でまたやりたかった。

②星空観察会について

- ・初めて望遠鏡で星空を見て綺麗と思った。月は明るかった。
- ・望遠鏡で遠くの星などがたくさん見られたので楽しかった。特に土星がきれいに見えた。
- ・土星にリングが本当にあった。

③弥生人体験について（火起こし体験・まが玉づくり）

- ・火起こし体験で火がついたのでうれしかった。まが玉作りでは石を消しゴムみたいに擦るのが大変だったけど楽しかった。
- ・火起こしは手もみ式で火がついた。まが玉は形よく作れたので良かった。
- ・まが玉を作るとき石で削るのが大変だった。弥生人の大変さが分かった。

④サイクリング・サイクルフォトロゲイニングについて

- ・班で声をかけながら走れたので仲間づくりもできて楽しかった。
- ・班のみんなで計画を立てて協力できた。
- ・一番楽しめた。

(3) 成果と課題

①成果

- ・事前説明会を実施し、子ども達に身に付けさせたい力である「能登の里海里山で自然環境および歴史・文化資源を活用した宿泊体験活動を通して、初めて出会う仲間と共に自然に親しみ互いに協力し合うことで、よりよい人間関係をつくる力を育む。」ことを参加者、ボランティアスタッフ、職員で共通理解し、事業の中でも意識を継続しながら活動することができた。
- ・最初に参加者、ボランティアスタッフ、職員が熱中症等対策講義を受けることで、夏の野外活動で心配な熱中症等の危険性を知り、対策をとることで安全な実施に繋がった。
- ・能登の里海里山には、各所に自然、歴史・文化的資源が多数あり、教育的価値が高いものもある。サイクリングをしながら羽咋市の魅力を伝え、満喫してもらうことができた。参加者にとっては、地域の魅力を知る良い機会となった。地元からの参加者にとっては、地域の魅力を再確認する機会となった。
- ・参加者にとっては、体力的・精神的に厳しい活動もあったが、活動班で声をかけ合い、励まし合うことで全員が全ての活動を最後までやり抜き、達成感を感じることができた。事後アンケートでは、「楽しかった」、「仲間づくりができた」、「みんなで計画を立てて協力できた」など、肯定的な回答が多くあった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策及び健康観察を定期的実施し、体調不良者を出すことなく安全に事業を実施することができた。

②課題

- ・参加者の安全確保のためにボランティアを募ったが予定人数に足りず、職員にスポット的に対応してもらった。活動時に他の班よりもボランティアの人数が少ない時があり不安がるボランティアの様子があった。
- ・サイクリングを中心としたプログラムであったため、参加者、ボランティアスタッフにあった新しい自転車を購入することができたことはよかったが、活動中に自転車の不具合が出るものがしばしばあった。
- ・プログラムの内容が多かったため、日程的に過密になり、参加者の疲れも日を追うごとに蓄積されていたように感じた。事業後半の日程については、余裕を持った日程を組む必要があった。